

MOBILE SUIT VARIATION

# MSV-R

## MOBILE SUIT VARIATION-R



### F.S.S

Federation Survey Service

### HANDBOOK



モビルスーツバリエーション ジオン編

# MS-09 ドム

ジオン公国軍は絶頂的な観点から、モビルスーツの地上における機動性の向上という問題に取り組んでいて、高いペイロードを有する機動兵器ドム・ダグ・イースとモビル



YMS-09  
プロトタイプドム

スーツを併用するなどいくつかの代替案が試みられたが、問題も根本的に解決するものではなかった。モビルスーツの機体の制御域を拡大すべく

立案されたのが、YMS-09のプロトタイプドムである。計画当初はホバークラフト方式であったが、機力不足から、無様ジェントエンジンとロケットの複合動力とホバ

## ■モビルスーツバリエーション MSVR

MS-09の試作機が成功を収め、本格的な量産機MS-09ドムはユーリシア大陸中部に配備された。最初にMS-09を受領したのは三連星の名で知られた特殊小隊であった。

MS-09の量産配備が進む中、MS-09の空母型仕様、MS-09リック・ドムが開発され、こちらも量産配備がすすめられている。

MS-09R  
リック・ドム



## YMS-09ドム トロピカル テストタイプ

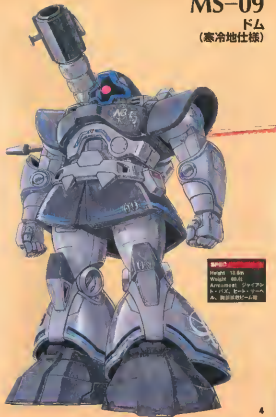
クラフトを応用する形に落ちると、試作機がジオン本国で製造され、キャリブオニアー・ベイスで各種のテストが行われた。



MS-09  
ドム



# MS-09 ドム (寒冷地仕様)



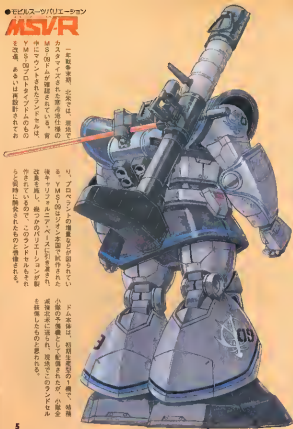
Height 18.5m  
Weight 40.0t  
Armament: ジャイアント・バズ、ビーム・サーフ、腕部固定ドーム砲

●モビルスーツバリエーション  
**MSVR**

一年戦争末期、北米では、戦地で  
カスタマイズされた寒冷地仕様  
のMS-09ドムが運用されている。背  
中にマウントされたランドセルは、  
YMS-09プロトタイプドムのもの  
を改造、あるいは再設計されてお

り、プロペラントの増量などが図られてい  
る。YMS-09はライン本部で試作された  
後キャリフォルニア・ベースに引き渡され、  
改造を施し、幾つかのバリエーションが製  
作されているので、このランドセルもそれ  
らと同時に開発されたものと推察される。

ドム本体は、初期生産型の1機で、試験  
小隊の予備機として配備されたが、小隊全  
員が北米に送られ、戦地でこのランドセル  
を装備したものと推察される。



# YMS-09J

ドム高速実験型



**MSD0**  
Height: 18.5m  
Weight: 85.2t  
Armament: シュライアントロイCS、トールガンサー、無誘導ミサイル

■モビルスーツバリエーション

**MSVR**

M&S 09ドムの高機動機と同時期にジオン軍はM&S 09ドムの持つホバリング進行性能の向上の開発に着手している。ジオン軍と連邦が戦前向上型M&S 09ドムに提出した要求項目は主に機動性の向上であり、開発期間を概ね90%以内の予定、最

大速度10%のアップと、最大速度までの到達10秒以内というもので、火力については触れていない。  
無誘導機とも思える要求項目をみたすべく動き始めた開発チームは、先行していたM&S 09グフ飛行試験型開発チームから

データを入手、これを基にして、可動式のスタビライザーを装備するシールド推進バノウを開発。これを右サイイドに推進機を追加装備した改造型や100%は達して、高速度実験機1号機を完成させている。



# MS-09R

リック・ドム  
(ドズル・ザビ中将専用機)



**SPEC**  
Height: 18.8m  
Weight: 65.7t  
Armament: ジェイア  
ン・バグ、滑空式  
ビート・ホーク、肩  
固定ビーム砲

## ●モビルスーツバリエーション MSV-R

ドズル中将専用機MS-09Rリノ・ドムは、リノ・ドム特務生星野の進言で、旧機をカスタマイズした機体である。ドズル中将の体格に合わせてコウビットを改修

した後、スパイクなど追加装備はあるものの、基本性能は通常型と変わらない。だが、外観が大きく異なるため、軍用上カスタム機に分類されている。真中に装備された肩

用の大型ビート・ホークは配備時に、ドズル中将専用機だったMS-09Fカスタムから転用された形で、ドズル中将自身の希望だったと語られている。





機動戦士ガンダム MSV-R ジオン編

メカニックデザイン：大河原邦男

企画：サンライズ

設定協力：草刈健一、川口克己(バンダイホビー事業部)、岡崎昭行

デザイン協力：片貝文洋

協力：バンダイホビー事業部

イメージイラスト：兼房光

コミックス：兼房光

編集協力：黒井敏典、ガンダムエース編集部



**Kadokawa Comics A**

角川コミックス・エース

き どう せん し  
**機動戦士ガンダム MSV-R ジオン編**  
へん

メカニックデザイン

おお か ならくに お

**大河原邦男**

編：草刈健一

2014年2月26日初版発行

発行者

**山下直久**

発行所 株式会社**KADOKAWA**

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話／(03)3238-8521(営業)

<http://www.kadokawa.co.jp/>

編集 **角川書店**

〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19 電話／(03)3238-8453(編集部)

装幀・デザイン

**小林博明(Kプラスアートワークス)**

印刷

**凸版印刷株式会社**

製本

**凸版印刷株式会社**

初出／『ガンダムエース』'09年5月号～'13年8月号をもとに再掲載

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。



落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替えいたします。KADOKAWA読者係までご連絡ください。（古書店で購入したもののについては、お取り替えできません）

電話049-259-1100(9:00～17:00/土日、祝日、年末年始を除く)

〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2014 KADOKAWA CORPORATION, Printed in Japan

©Kenichi KUSAKARI 2014

©創造・サンライズ

ISBN978-4-04-121018-5 C0979



MS-14A  
ゲルググ



MS-14  
ゲルググ



YMS-14ゲルググ

ジオン公国軍が一年戦争時期にすめた第2期主力モビルスーツ開発計画の目的は、連邦軍のRXシリーズを上回る性能のモビルスーツを開発することであった。候補となつたプランは、MS-06B、MS-06R、MS-09R、MS-11、MS-15の4つで、軍内ではMS-11が本命視されていたが、開発は始まつたばかりであったため、暫定的に総合性能で勝るMS-09Rが第2期主力モビルスーツとして運用されている。RXシリーズの対照アークを模範と開発がすすめられたMS-11は、MS-14と型式ナンバリングが変更され、機体カラーはMS-14が25機製造された。MS-14ゲルググは

MS-14Bゲルググ  
(ジョニー・ライデン少佐機)



●モビルスーツバリエーション  
MSV-R

MS-14C  
ゲルググキャノン  
(エース部隊所属機)



MS-14C  
ゲルググキャノン  
(トーマス・クルツ大尉機)



MS-14B  
ゲルググ  
ブースターパック

ジオンのモビルスーツ中、初めてビーム兵器を標準装備。また、従来のランデセルを改良させた各種バンプノックを必要に応じて換装とした。  
MS-14Bは増速用ブースターパックを装備した高機動型で、1号機はエース部隊に配備され、ジョニー・ライデン少佐の乗機となった。



YMS-15  
ギャン  
(マ・クベ大佐機)

MS-14Cはビーム・キャノンと増速用ブースターからなるキャノンパックを装備。頭部に補助カメラが追加されている。第2期主力モビルスーツの開発計画の1つYMS-15ギャンは高い自衛駆動力をもつが総合性能はMS-14に劣る事はなく、試作機数体の製造のみにとどまった。

# MS-14C-1A

ゲルググキャノン  
(ジャコビウス・  
ノード大尉機)

特殊任務用兵器として、南部にコン  
プライマリータンクを装備したMS-14C-1  
Aは、キヤイラ艦隊に配備されていた。こ  
のMS-14C-1Aには、オプション装備と

して、14日のランデルセルとよく似た建造用  
ブリスターパノクが搭載されていた。短期  
間で稼働する事が可能で、ランデルセルに合  
わせてキャノンパノクのどちらかが装備さ

れた。特殊的な老練パイロットは識別  
用として塗られたもので、14日には同様の  
ラインを施した機体が存在する。



●モビルスーツバリエーション

MSV-R



**SPD**  
Height 18.2m  
Weight 780.0  
Armament ビール・ライ  
フル、ジャイアント・ガン、  
ミサイル・ランチャー、ア  
ンチバード銃などサイル、●

# MS-14B

ゲルググ高機動型  
(ユー・ライトニング  
中尉機)



## スペック

Height 18.2m  
Weight 38.2t  
Armament ビーム・ライフル、グレイヴアンクル・バズル、ミサイル・ランチャー、フラッグリバー3連装式ミサイル、他

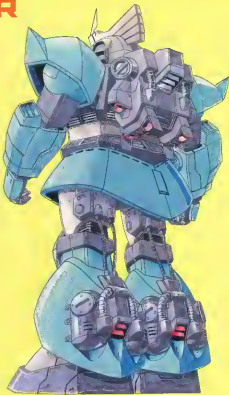
●モビルスーツバリエーション

MSV-R

今次大戦で登場されたジオン系モビルスーツや、前編の完成度をもつ着上位置は、MS-14と肩を並べている。生誕されたMS-14の量産先行型25機のうち24機は、吉住純がエースパイロットを相乗りして新

機成された部隊に配備されている。エース部隊にはMS-14のB、C型のほか、旧型の高機動型MS-14Bと、戦後時間拡大を目的として新機にコンプオーマルラングを増設し、増設機「ウィースターパンク

をオプションとする14C-1Aが配備された。それぞれの機体にはパイロットに合わせた改造がなされている。



# MS-14BR

## ゲルググ高機動型 R型

(ジーマンス・ウィルヘッド大尉機)



**スペック** **モビルスーツ**  
 Height: 16.2m  
 Weight: 53.8t  
 Armament: ビール・ライフル、シャイアント・バズ、ミサイル・ランチャー、ラングラー-3機銃2基、等

●モビルスーツバリエーション

**MSVR**

エース部隊として知られるキマイラ艦隊に配備されたMS-14Bの1機。艦隊の訓練を担い去り、艦隊の推進器を更に大強化した機動性能向上型で、その姿が

MS-106目に似ていることからゲルググ目とも呼ばれる時もあるがこれは通称で、MS-106目が正式名称である。  
 BR型は、パイロットの表示性能を完た

す海に開発された機体で、ワイマノット社工場での機体造りた準備パーツと合わせて納入され、キマイラ艦隊内で更にB型1機がB目型に改造されている。



# MS-14BR

## ゲルググ高機動型 R型 (エメ・ディプロム中尉機)



機体データ  
Height 18.2m  
Weight 53.3t  
Armament: ビーム・ライフル、ジャイアント・バズ、ミサイル・ランチャー、ランニング装置とサイア、他

# ●モビルスーツバリエーション MSV-R

機動性をアップした事で、MS-14BRには問題が生じている。プロペラントの消費が早く、機体寿命が短縮されたことである。だが、MS-14BRを基礎としたの

はいずれも腕に受えるエースパイロットに達である。実際にプロペラント不足などのトラブルは一切なく、開発陣を安心させた。

パイロットを基調としたこのBRタイプは、キマイラ隊唯一の女性パイロットの乗機である。この機体は新機体、連邦軍に接収され、新機体のテストが行われている。



# MS-14BR

ゲルググ高機動型 R型  
(デビッド・チェイスマン少佐機)



**スペック**  
Height 18.0m  
Weight 63.2t  
Armament 60mmライフル、ハイパーバズーカ、ミサイル、ランチャー、フラッシュガン、近接武器、電

●モビルスーツバリエーション

**MSV-R**

機体名 定率兵に色と翼のインペリアルストライプを施した機体は、キマイラ種に所属するデビッド・チェイスマン少佐が運用したMS-14BRである。シロ

ニー・ライザン少佐の機体かと誤解したところ、配色である。デイスマン少佐は、過去に戦ったゲルググと似た機体を見たことがあるが、赤と白のカラーに用いた事

はなく、この機が14BRのカラーリングについての詳細は不明である。しかし、明瞭にライザン少佐も所属する事から、何らかの平儀によりものかもしれない。



# MS-14GD

## ゲルググG

MS-14ゲルググの生産がスタートした1979年10月、ビーム兵器を有するMS-14の第四世代を確立していたジナン軍は

戦と戦への投入を機に、ジェネレーターなどMS-14の基本パーツをキャリフォルニア・アベースへ搬送。新型MS-14の開発を

進めさせていた。一ヶ月経てず新機軸ランドセルを装備したMS-14G、MS-14GDの初陣任務が三度、すべてを遂げ決定された。



### ●モビルスーツバリエーション

## MSVR

**SPRINT**  
Height: UNKNOWN  
Weight: UNKNOWN  
Armament: 専用ビーム・ライフル、ジャイアント・バズ、専用シールド、他

### 専用ビーム・ライフル

砂漠運用の為に銃身の冷却システムを追加装備している。



スラスターをオミットして機体が軽量化され、機動性能が向上したこともあり、小型シールドが用いられた。

### 専用シールド



# YMS-15E ギャン・エーオース



**SPEC**  
Height: 18.2m  
Weight: 16.8t  
Armament: ビームリペ  
イザーバット、シャイアーク・  
パス、電光シールド、電

●モビルスーツバージョン

**MSVR**

第二期主力モビルスーツ候補として開  
発されたYMS-15ギャンは、機體設定で  
MS-14ゲルググに敗れ去るにいたらず  
かつ、ツィマツト社により製作された試  
作機は、機体1機はマ・クバ大佐が愛用

された。ジオン公国突撃機動隊が愛用してい  
る。  
ジオン公国突撃機動隊はこの愛用のYMS  
-15をツィマツト社、ジオニック社の協  
力を得て、実証試験機として試作機に集

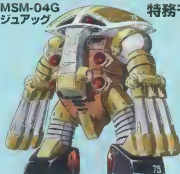
手した。

MS-05ザウイと多少異なる程度であっ  
た突撃機動隊の改良、兵隊の募集しそ  
うとした試機の機とされた。





**MSM-04G  
ジュアッグ**



# **特務モビルスーツ**

南アメリカ大陸北部にある「ジャブロー」は連邦軍の統治下であり、最大の工業地帯である。施設は地下深くの空洞内に建設され地上からの攻撃は不可能とされた。この地は不慮の事態を克服するために、ノオン公園軍は特ツカの特殊モビルスーツを開発している。

**MSM-04G  
ジュアッグ  
(格闘戦用  
アーム仕様)**



**MSM-04N  
アッグガイ  
(クロー仕様)**



**MSM-04N  
アッグガイ**



# ●モビルスーツバリエーション **MSV-R**

**MSM-08  
ソゴック**

**MSM-08  
ソゴック  
(ジャブロー  
攻略戦仕様)**



**EMS-05  
アッグ**



**EMS-05  
アッグ武装型**



同族 特殊モビルスーツへと転換された。特殊モビルスーツ中最も特徴的なスタイルをしているのがEMS-05アッグである。ジャブロー攻略戦では、モビルスーツ部隊の侵入用のトンネル掘削を目的とし、大型のドリルとカノターをそれぞれ搭載。レーザービームを多発射している。胴体にはホバークラフトユニットが内蔵され、これで移動する。形状、性能からモビルスーツというよりは、戦機といったほうが正しいがらしかない。

## 水陸両用 モビルスーツ



**MSM-03  
ゴック**

**MSM-04  
アツガイ**



第2期水陸両用モビルスーツとして開発されたMSM-04アツガイは、一般にMS-06ザクⅡの部品を流用するなどの試みから開発に開発がすすみ、開発が先行していたMSM-07よりも実証実験は先となった。初めて複合式コクピットが採用され、水陸両用モビルスーツのトレーニングとしての運用も多かった。

MSM-03ゴックの設計図面がデフォルメされた。

水陸両用モビルスーツは、地球連邦作戦の決定によって、開発に着手。MSM-03ゴックは、第1期水陸両用モビルスーツとして開発されたMSM-03ゴックは、水冷式反応炉により、長時間の連続行動が可能である。更に浮遊機として機能し、メガ粒子砲の門を襲撃、移動時には、あらゆる対海兵器を無力化するフリージャーナードを装備、ジオンの沿岸各地と海水基地に配備された。

●モビルスーツのバリエーション

**MSV-R**

最終設計がなされたMSM-07は、完成に手前取りMSM-04アツガイに倣えられてしまったが、総合的な戦闘力はMSMシリーズ中最も高くなった。武装は両腕にメガ粒子砲とクロー、頭部には240ミ

リコケント砲6門が搭載されている。MSM-10ゾックはMSMシリーズ中、最も特異なタイプである。局地航行移動メガ粒子砲と呼ぶのがふさわしいものであった。

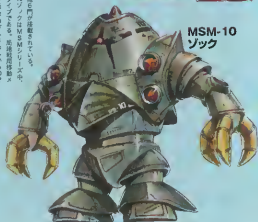
**MSM-07S ズゴック**



**MSM-07  
ズゴック**



**MSM-10  
ゾック**



MSM-07N  
ラムズゴック

水陸両用艇M8の名艦といわれた「ズゴノク」も戦場では陸軍外のアクシデントに見舞われる事が少なくなかった。両艦に装備した機関をも切り裂くクローでの攻撃は主に水中での艦艇攻撃やM8との近接戦闘時に用いられるズゴノク独自の戦術だったが、この攻撃の際に夕



●モビルスーツバリエーション

MSVR

1998

Abstract: This paper discusses the importance of the role of the state in the development of the economy. It argues that the state should play a more active role in the economy, particularly in the areas of infrastructure, education, and health care. The paper also discusses the importance of the role of the private sector in the economy, and the need for a balance between the two.

Website: [www.fox.com](http://www.fox.com)

Approved: 03-11-2015

• 对量子数 $n, l, m$ ， $l = 0, 1, 2, \dots, n-1$ ， $m = 0, \pm 1, \pm 2, \dots, \pm l$ ， $n = 1, 2, 3, \dots$ 。



口を戦慄し、攻撃対象がその  
隣影を引き抜く事が出来な  
いというトラブルが事発し  
ていたのである。このトラ  
ブルを克服するために、以  
前演奏されたのが、星亨の  
「ラムズ・ブレイク」である。

# MSM-07N ラムズゴック (ブロンジュール隊機)

試験時の開発機をクリアした、試作型MS-07は北コロロパル西部と北米大陸沿岸部に配備されている。  
大型の衝角を装備したこのラムズゴックには試験機版に型式ナンバー「M-37」が記入が与えられたとされている。

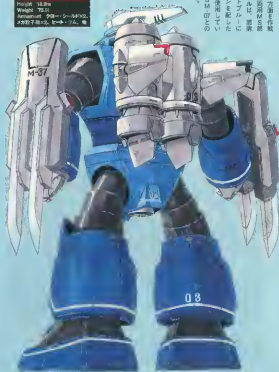


●モビルスーツ/ビエーション

**MSVR**

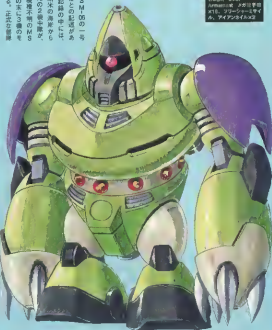
MSVR
Height 18.8m
Weight 75.0t
Armament 20mm-シールドMG2, メガ粒子砲×2, セーラー・ラム

北米コロロパル西部を特戦部隊とした米陸軍第MS部隊「ブロンジュール」は、部隊カラーのライトブルーにホワイトラインを配したMSM-07Nを使用していた。簡称はMSM-07との表記部隊である。



# MSM-06 ジュリック (南米戦線仕様)

Height 18.7m  
Weight 84.0t  
Armament 20mmガン  
x16、クラーシェーミサイ  
ル、アイアンバインド



ジオン軍の記録にはMSM-06の一号機は試験運用中に失われたとの記述がある。また、連邦軍の戦術記録の中には、0079年12月の申請、南米の海岸から近い南緯地帯で、自国MS-78の2機と敵が、2機のMSM-06ゴングと機体不明のMS-1機と遭遇、一時間半の交戦の末に3機のモビルスーツを撃滅したとある。正式な戦術

記録は記録されていないが、軍部後援での試験運用を行われていたと推察される。MSM-06の生産数については2機とする説、3機とする説の二つがあり、2機とする説の根拠は確認された機体数から、もう一つは発注記録から機と記録されていたためで、どちらが正しい情報かは現在のところわかっていない。



# EMS-05F アゾック

SPEC. **UNKNOWN**  
Height: **UNKNOWN**  
Weight: **UNKNOWN**  
Armament: **UNKNOWN**



## ●モビルスーツバリエーション MSV-R



ジャブロー基地駐留として開発された、特務用モビルスーツをMS-06Fアゾック味、EMS-05Fアゾックのバリエーションである。ジャブロー攻撃作戦の場方を支援を目的に製造された本機型もモビルスーツで、両腕に数種類の火器を装備しているが、対モビルスーツ戦には不向き。敵回生機や地上施設など固定目標に威力を発揮する。機体構造はEMS-05をベースとしているため、機動性能はEMS-05と同様である。純然たる水陸両用でモビルスーツではないが、短時間の水中運動は可能で、胴部には小型の魚鰭を装備している。

## モビルアーマー



MAX-03  
アッザム



MA-04X  
ザクレロ



MAM-07  
グラブロ

大規模兵器として、その威力をいかに高く發揮して来たジオン公國軍のモビルスーツだが、多様化する戦況にあつては、汎用兵器であるがゆゑに対応しきれない事態が発生。この事態に対処すべく、支援用兵器の開発が推進された。

これ、攻撃力を増強した移動支援兵器であり、モビルスーツよりも構造が簡単であった。大規模兵器から、活用テストをかねて高機動と射撃精度が求められたが、試験直前であつたため、みるべき要素をあげる事はなかつた。

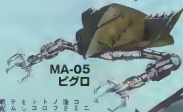
●モビルスーツバリエーション

MSV-R

MA-08  
ビグ・ザム



MAN-03  
ブラウ・プロ



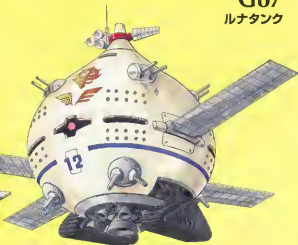
MA-05  
ビグロ



MAN-08 エルメス

ニュータイプ・パイロット用としてサイコミュシステム搭載のモビルアーマーも開発されている。このシステムの特長は、ミノフスキー防子の影響でもりキーコントロールが可能である。武器がリモートコントロールであるならば、操縦が人間をしていない必要性はなく、サイコミュシステムを搭載したモビルアーマーの開発、実現化が図られた。

# G87 ルナタンク



重要なMSに代わり月面の戦力確保のために開発されたのがG87ルナタンクである。設計は開戦前の0077年に始まり、一号機がグラナダのジオ・ノック工場で0078年7月にロールアウト。開戦前までは22機が完成してグラナダの防衛隊に配備されている。

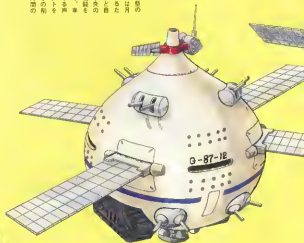
車体には主武器として2連装の突撃砲Bが装備されており、パイロント1基、砲台4基で操作される。砲台の数は後に大気管制システムの改良により2基に変更されている。

●モビルスーツバリエーション

**MSV-R**

開戦前のキナタビラは車体に比べ小型のものが下面に装備されているが、これは月面の重力下のみの運用を前提としているためであり、最大走行速度は時速約30kmと自己駆力は極めて低い。戦闘時は下面中央のロケットエンジンを使って飛行して戦闘を行うのである。飛行時は約一時間で、車体のパイロント量の拡大を公算とする所はあったが、すでに車体の25パイロントをパイロバントにあてていたため、前半の削減などから改良点を施しても飛行時間の拡大までには至らなかった。

**MSV-R**  
Height: 25.5m  
Weight: 275.0t  
Armament: 2連装突撃砲x2





# MAM-07-X3

## グラブロ

### 試作水中ビット搭載型

スペック

Height: UNKNOWN  
Weight: UNKNOWN  
Armaments: 75mm高角用対空  
X3, 対空ミサイル、ランチャーX3,  
試作水中ビット(2機) (※機)



#### 有線式水中用ビット

MAM-07-X3の船体下に装備される試作水中型ビット。船体から分離されると安定翼を展開、ウエータージェット推進で水中を進む。



●モビルスーツバリエーション  
MSVR



水中戦闘として開発されたMAM-07の3機のうち1機は、ロームアウトから脱走なく改修作業が行われ、サイココムを搭載した試作MAに生まれ変わり、新機種のテストを実施している。このMAに搭載されたサイコムシステムは、通常パイロットによる操作可能なサイコムシステムであり、サイコムシステム搭載機の可視性を確保する要領がジオンと類似したものと想像される。

MAM-07改修機は、機体左側に取り付けられたグラブロローンを機体、あるいはスベースには新たに開発された有線式水中用ビットのパイロンが取り付けられ水中用ビットが装備されている。船体の後方にはビット通線操作用の複合通信システムを収めたユニットが追加され、更に船体下部にはソナードームも追加されている。

# MAN-00X-2

ブラレロ

## SPEC

Height: UNKNOWN  
Weight: UNKNOWN  
Armament: 高速度バリエーション、ヒート・シールド、高速度サイコロ、他



ニュータイプパイロットの出現により、サイコロミニオンを開発した月のグワダ基地は、MAN-00ブラレロ・プロの増強

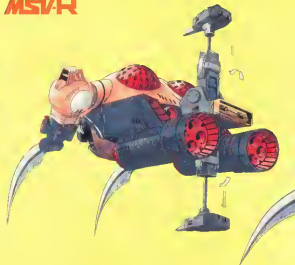
## シャッター

刺き出した鋭い爪を収めるためのシャッターが後部型以降隠れられている。またプロペラントタンクも増設された。



# ●セビルス・ツヴァリエン

MSV-R



コントロールによるメカ種子砲技術の完成に成功。それと同時に、このシステムをダウンサイジング化したサイコロミニオンを搭載した機体。あるいはMANの開発を助けている。

何故なら機体の大きさが大型攻撃機に合ったため、量産には向かなかったからだ。

開発陣はこのダウンサイジング後の機体に挙げたのがMS-00とMAN-00Xであった。二軍は了承され、片方はMS-00X、MS-001へと発展している。

一方で量産計画が破綻したMAN-00Xを再利用して、新たにニュータイプ対応の量産機へと発展させるプランが立案され、先行して生産された機体のひとつをベースにニュータイプ対応機への改造が行われたのである。

わずかな改造で改修作業を終了した本機は間もなくア・バオア・クーにフェリシア、トレーナーの任に就いている。なお、この機体ではさらに腕部も有線式コントロール対応へ改造され、大規模戦に必要参加している。

# MA-05R ビグ・ルーフ

機体色

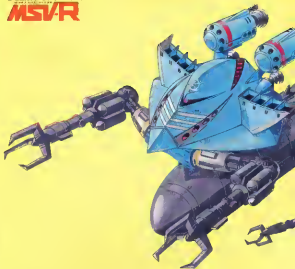
Height UNKNOWN

Weight UNKNOWN

Armament: 400mm子弾、4連装ミサイル・ランチャー、クロー・アーム、大砲ミサイル、機



●モビルスーツ/リレー・シオン  
MSV-R



0079年12月初めジオンの要塞基地  
ア・バオア・クー内の工場で大形ミサイル  
を製造したMA-05ビグロフの機体型、ビグ  
ルーフがロール・アウトしている。ビグロフの  
機体下面に、全長100メートルを超える  
大型ミサイルを収容するための大型パイロ  
ンを追加。機体重量増加にともなう推進力  
不足を補うブースターが2基追加装備され  
たもので、ブースター先端にはミサイル  
ポッドを装備している。大型ミサイルは、  
ア・バオア・クーに配備された対艦攻撃用  
を主体、プロバントを連射しておりヒッ  
ト・アンド・アウェイを想定しての設計が  
用意されていた。

あるべき最終兵器に備え、先陣を切って  
前線陣に打撃を与えることを目的に建造さ  
れた機体で、ア・バオア・クー戦でフル  
の機体とグレイの機体、2基の機体型ビグ  
ロフが暴走している。後に機体型に改良さ  
れたビグロフは機体型だと判明している  
が、ア・バオア・クー戦で全ての機体が失  
われている。

ザンジバル改級機動巡洋艦  
キマイラ



Height: UNKNOWN  
Weight: UNKNOWN  
Armament: UNKNOWN

MSV-R



大戦期、ザンジバルは電報・電話・無線を有するイフは船舶・陸方と大勢の兵士を格納する有るカイゴベイの増設工事を計っている。これは、高性陸を要するザンジバルの島を陸軍の増加を固り、電報・電話としての運用を、めざしたものである。運送の目的、制空権を確保するために航空機を配備する。このため、大戦期を通じて、4隻の増設工事が完了し、うち3隻のザンジバル島が完成している。

ザンバル線に増設されたモノコックが、  
ニートの基下板上にバレルと1基を装備。ユ  
ニート内はM8を毎秒電撃1デノキフコ  
アと5基の砲性をフロア1などで構成され  
ており、無敵無敵は、大型のタングが取り  
付けられている。4基のタングのうち3基  
はM8などに使用される戦術用。1基は資  
料などを格納する倉庫として使用される。そ  
れぞれ電撃などの緊急時に迅速なバルトで  
可能。

ユニートは、ザンバル側に断たれ続けら  
れた路線で、大規模電撃用「ブスター」のマ  
シントなどを利用し、取り付けられている。

# ゴブル 宇宙戦闘攻撃機

PPSSC  
Length: 7.8m  
Height: 4.8m  
Weight: 8.7t  
Armament: ミサイル8、他



ジオン公國軍の主力戦闘攻撃機ゴブルの開発は0060年代の初めに始まり、0070年には正式採用されている。0076年には部隊配備数は3000機に達し、多量にジオン軍の主力機の一つになっている。

戦闘機としての機動性に高い対艦攻撃性能を有する為、高機動な戦闘機機体として配備されたが、新鋭攻撃機としての運用がなされたという経緯がある。

# ●モビルスーツバリエーション MSV-R



機体本体に8機のミサイル発射管を装備し、機体外のミサイルに兵器ステーションを装備。戦闘ミサイルに合わせた各種のミサイル類を装備する事によって、コクピットは通常のタンデム構造で、特殊にパイロット、後座にはミサイル種子下の火器制御を担う攻撃手が乗り込む。

0075年以降は、安定した機動率に加入し、機体の高さから、様々なバリエーションも誕生している。高性能の燃料システムを搭載した偵察型、機体前方に大型のカイゴスベイスを装備した、物資運搬・兵器輸送などに使用される輸送型、固定式銃の変更や、兵器ステーションを増設した火力向上タイプなど、様々な機体で加えると10数機に及んだ。

機動機の開発も計画されていたが、日々進化する空間戦闘技術の多様化にともない計画案は採用に至らなかった。

主力機として多くのジオンパイロットの乗組となった同型はモビルスーツの台頭と同時に戦闘ミサイルの中心からはずれ、一年戦争では艦隊の迎撃任務が主をミッションとなっていた。

# ガガウル級MS運用駆逐艦

## スペック

Length 47.4m  
Width 14.7m  
Armament 連装メガ粒子砲×2、メガ粒子砲×2、ミサイル・ランチャー×1、ギビルス・ブキ



## ●モビルスーツバリエーション MSV-R



モビルスーツの搭載配備に伴い大掛かりな軍備拡大を図るジオン公国軍は、前編におけるモビルスーツ機動隊の拡大を断念としていた。モビルスーツの運用化にめどがついた時点で、用意される艦は艦クラス以上の艦船にはモビルスーツの運用機動隊がおりこまれる事になったが、距離数はジオン公国上層部が公算と考えるモビルスーツ搭載数を満たすものではなかった。大量のモビルスーツ運用のために新造空母や輸送艦の開発もすすめられたが、同時にすでに退役している艦船にモビルスーツ運用を可能とする改修作業が進められた。

ガガウル級駆逐艦はモビルスーツ運用艦に改修された艦の一つで、船体の側面に増設されたドッキング・ベイにモビルスーツを固定する固定型モビルスーツ運用機である。当然モビルスーツのメンテナンス作業スペースはなく、補給も全機に必要を作業を他の艦船にゆだねる割合が多かった。ガガウル級の改修計画は70隻が予定され、0078年末には65隻の改修作業が完了していた。

ジオン公団軍の誇る大型機ダウグランの側面を占めるように、2機のリック・ドムとそれにフライングバスターとドム軍用リック・ドム。この画像は、0079年の末に行われたジオン公団軍の艦隊式の一環である。ドム軍中の常用機であるMS-06Hの機体中の機体は、従来の機体よりも少なく、機体と共に正面からのこのカッ

トは、従来のリック・ドムである。後方のリック・ドムの機体マーには、ドム軍のバーズナルカラーであるライトグリーンでラインが施されているが、これは機体式のためのスペシャルマーキングである。



ロケットの力で噴射された星は、距離が伸びてくると棒状を呈し、端々を連続したバターのY字で構成されておりました。同じ星の棒状が無いのが実に興味深い。研究が進展し、生涯の果てにたまたま、部品の形状の異なるプロトタイプ、もしくはFRODO全乗組員が試運転と知られる機嫌まで安全確認を重ねていたところである。





連邦軍が持統まで手をやいたラオン公国軍の水陸両用機は、海上、海中の船艦迎撃の時、海軍地域の海軍艦艇も対象としていた。連邦軍が望んで手をつけたのがこの両岸機艦艇の迎撃である。ソナーや機銃による防衛ラインをかいきり、突如と海面上に現れる水陸両用機への対策は海軍側の必要の無いファンファン度

要領をばいめととらえられた航空兵力のみというのが実情である。このため、大戦後期にジムが配備されていたが、これも既に過期があり有効性はかなり神をかつたのである。ここで部分手を写真し、ジオンの水陸両用機の中下も軍と機動力の高いうえ、うが海軍艦艇を撃破した後に撮影されたものである。

ガガウル機は機体はモビルスーツの形態で運用し、陸空の両方に活動し、発生した機体である。モビルスーツの性能の増大を目的とした機体として開発されたため、モビルスーツの機体と有する機体は機体以上の機体には、ガガウル機の運用性能はモビルスーツパイロットとは、とても異なるものではな

かった。特に機体から伸びるケーブルによる機体システムの制御は、ガガウル機体のパイロット連中はストレスとなくこの機体システムの機体性能が認められていた。モビルスーツのパイロットの機体は機体であったものの、一々機体性能のガガウル機の機体性能を高く評価する声も多く、機体は二分されていった。

# RX-78-1

## プロトタイプ ガンダム (ロールアウト タイプ1)

**SP-00**  
Height: 18.0m  
Weight: 10.0t  
Armament: ビーム・ライフル、専用ビーム・ライフル、ハイパー・バズーカ、ビームサーベル、専用トール、他



●モビルスーツバリエーション

**MSV-R**

ジオン軍のM56FザクIIを模倣的に分析・解析データをもとに連邦軍の科学性の粋を集めて完成されたモビルスーツがRX-78ガンダムである。  
開発は、開発の基体からスタートして、試作一機RX-78-1プロトタイプガンダムがシナプロードロールアウトしたのは約8ヶ月後のことであった。



## 専用ビーム・ライフル (ハンドショットガン・ タイプ)

当初は銃の後ろにRX-78-1の腰部との一体化が考慮されたストラップが付けられていたが、ボルト部とともに改修作業が施されている。



# FF-X5 プロトタイプ コア・ファイター

SPSD  
Length: 7.8m  
Weight: 5.1t  
Armament: 32



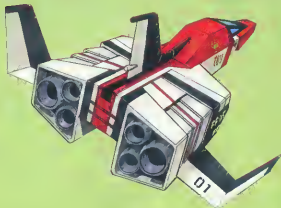
## FF-X7 コア・ファイター



(RX系モビルスーツ開発にあたり、コクピットモジュールとして完成したコア・ファイターの試作機は極めて高く、計画されていた追加機体の製造が計られた。

RXシリーズモビルスーツの共通コックピットモジュールとして開発されたFF-X5は、それぞれ個別に試作されたコア・プロトタイプ、コア・ファイターから導かれたデータをもとに開発された、全機製造試作機である。

開発の主軸であるコア・プロトタイプのモビルスーツの射出・脱出装置への実用機構、機体の機動性能を向上させる項目は多岐にわたり、性能テストは時間をかけて慎重に行われた。







# FA-78[G] フルアーマー ガンダム 陸戦タイプ (タイプ2)

SPEC	
Height	18.0m
Weight	85.4t
Armament	頭部射撃 バルカン砲×2、立降機 ビーム・ライフル、磁気サ ット砲、ビーム・サーベイル ×2、ミサイルランチャー

●モビルスーツバリエーション  
**MSVR**  
RX-1701をベースに設計されたため、78[G]に比べ、機動性を重視したため、ヘビ  
ーウエイトとなる追加装甲パーツの減量は  
徹底的に検討された。結果、装甲面積は  
RX-78-1の約70パーセントに縮小しなが

ら、重量を50パーセントまで下げる事に成  
功している。両腕駆動力は低下するが、こ  
れを補う充分な火力が装備された。  
一併は、RX-78のコア・プロノク・シ  
ステムを除いての減量化も視野に定められ

たが、結局、コア・プロノクはそのままで  
まとめられた。  
主装甲パターンとして、結果次第パター  
ンと、色をベースとした標準地味色が検討さ  
れていた。





# RGC-80

## プロトタイプ ジム・キャノン (タイプ2)



**SPRC**  
Height 15.5m  
Weight 12.8t  
Armament: 300リヤ  
ンロケット砲×2、他

# ●モビルスーツバリエーション

## MSV-R

先に完成したRXX-77ガンキャノンの中  
原案を描いたものの記念性、本機は  
と平たいもので、そのままだと見られるか  
と恐れられた。だが、V作戦で開発されたコ  
アを中心とするRXXシリーズ試作の多用途

変換機構では、RXXタイプをさらに細  
密化する必要があった。  
量産仕様の試作は、進捗直  
の全止から間もなくジャブローで0079年  
10月にロールアウト、完成したRGC-80

プロトタイプジム・キャノンは、ロケット  
砲発射時のバランス不良から、機体の改  
修が施される事になり、工場わずか5日と  
いう短時間で完成したが、RGC-80の  
タイプ2である。





# ロックウッド級潜水艦



## SPEC

Height: UNKNOWN  
Weight: UNKNOWN  
Armament: 魚雷発射管  
x4、巡航ミサイル発射管  
x16、対艦ミサイル

ロックウッド級潜水艦は地球連邦軍が前年代の核抑撃能力増強計画に基づき建造を始めた潜水艦である。0075年に1号機の建造を發注、同0076年末に1、2番艦が起工、0077年には3番艦の起工も進捗が起工している。0078年には1、2、3番艦が進水、同年末に就役。4、5、6、7番艦は就役下の0079年1月に進水、同もなく全艦が就役している。

0079年、ジオン公国軍特攻作戦の第2次艦下作戦後、ジオンの特殊部隊によりロックウッド級は全機、また建造機材が破壊され、ほぼ沈没していたる番艦までもがジオン公国軍の手におちてしまい、掌握されたロックウッド級7隻はキャリフォルニア・ベースで改修作業が施された。後に、水中母艦モビルスーツの性能試験を持つ、ジオン公国軍の大型潜水艦マッド・ファンズラー艦のベースとされる。0079年9月末までに全艦がマッド・ファンズラー級潜水艦として完成されている。

●モビルスーツバリエーション  
**MSVR**







上の画像はコアファイターの機体テストの最大の瞬間であった、RX-178パイプの空中機体テストの第1回を撮影したものである。空中機体テストは両手武器の試験等、地上では実施され、ガバリーから射出されたRX-78のAパイプ、Bパイプとコアファイターが機体テストの成功を待っている。RX-78が空中機体テストを行っている。

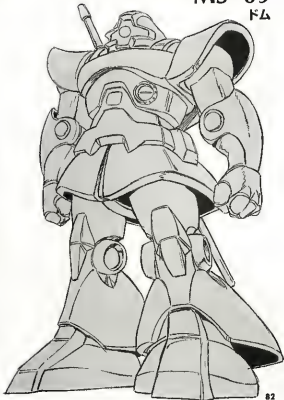
その時、RX-178パイプの機体テストは地上に発生するという噂が流れた。下の画像はRX-178パイプの機体テストの1つとして行われた機体テストの1つである。機体テストは地上では実施され、ガバリーから射出されたRX-78のAパイプ、Bパイプとコアファイターが機体テストの成功を待っている。RX-78が空中機体テストを行っている。

## MOBILE SUIT VARIATION-R

### もくじ

VMS-09	P2-82	VMS-10(マ・クベ大佐機)	P11	MAN-08	P41
YMS-09D	P3	VMS-15E	P24-100	G87	P42-110
MS-09	P3	MSM-03	P28	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-09R	P3	MSM-04	P28	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-09(機体試験機)	P4-54	MSM-04G	P28	ゴバル中隊機体試験機	P120
YMS-09J	P5-56	MSM-04M	P28	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-09R	P5-56	EMS-05	P27	ゴバル中隊機体試験機	P120
(フェスル・ザビ中隊機体)	P9-58	EMS-05F	P30-108	ゴバル中隊機体試験機	P120
YMS-14	P10	MSM-06	P34-106	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14A	P30-30	MSM-06(機体試験機)	P35	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14B(機体試験機)	P30-30	MSM-07	P29	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14C(機体試験機)	P30-30	MSM-07S	P29	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14D(機体試験機)	P14-36	MSM-07M	P30-102	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14E(機体試験機)	P14-36	MSM-07N(機体試験機)	P32	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14F(機体試験機)	P11	MSM-08	P27	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14G(機体試験機)	P11	MSM-10	P29	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14H(機体試験機)	P11	MAN-07	P40	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14I(機体試験機)	P11	MAN-07X3	P44-112	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14J(機体試験機)	P12-32	MAX-03	P40	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14K(機体試験機)	P16-34	MA-04X	P40	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14L(機体試験機)	P16-34	MAN-02X-2	P40-114	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14M(機体試験機)	P16	MA-06	P41	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14N(機体試験機)	P20	MAN-05	P41	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14O(機体試験機)	P20	MA-06	P41	ゴバル中隊機体試験機	P120
MS-14P(機体試験機)	P22-96	MA-06R	P40-116	ゴバル中隊機体試験機	P120

# MS-09 ドム



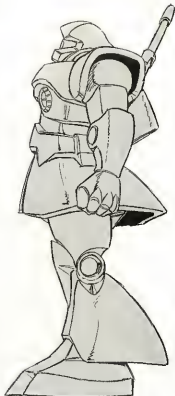
●モビルスーツバリエーション

MSVR

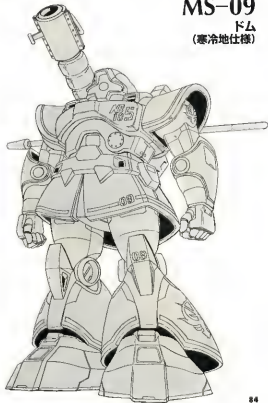
航空機などの機動性の高さを示したMS-09ドムは、陸戦用モビルスーツの決定版といえるものであった。既述したMS-06ザクを凌ぐものを目指された。360ミリバズーカ砲とビームサーベルが標準装備され、機体側面には高

熱ビーム砲が固定装備されている。360ミリバズーカ砲のジャイアント・バズはMS-06の開発に並行して研究された武器で、それまで製作されたモビルスーツの後半分のうち最大砲のものである。その威力は、のちに開発されたMS-14用ビーム・

ライフルに及ばないものの、一撃で通常戦うラスの宇宙艦を破壊させる威力をみせた。ジャイアント・バズはジオン公国軍の基本モビルスーツ規格にしたがい製作されたもので、MS-06、MS-09などの運用も可能であった。



# MS-09 ドム (寒冷地仕様)



●モビルスーツバリエーション  
MSVR

## ジャイアント・バズ

ドムの標準装備である  
ジャイアント・バズの装  
束は、全長制と食  
量のジャヤヤが取り付  
けられている。

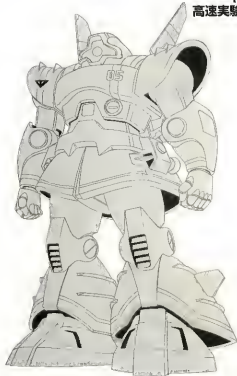


機体の柱状ヒーム砲は機体後部、周  
装スにはエア・インテイクが増設され  
ている。これはランドセル型及び基所のスラ  
スターエンジンの冷却用としての改良と並  
行して行われている。

ドムのカラーリングとしては、周と前部  
に大きくジオン公國のマークが描かれた珍  
しい機体と見えてくる。

# YMS-09J

ドム  
高速実験型



●モビルスーツヴァリエーション

MSVR

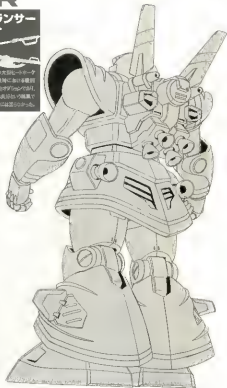
ヒート・ランサー



高機動の多関節を持つ大型ヒートランサーは同様に最も多関節機に多い多関節機であるが、その構造は非常に複雑で、その構造は非常に複雑である。正式機には500ターンの

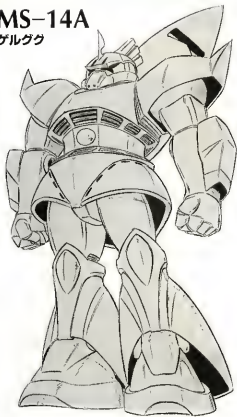
1号機は第1回の試験で最高速度127パーセントを記録しているが、第2回のテスト時にバランスを失い、機体は失われている。続いて制作された2号機では、通常のターンのバランス維持のためにス

タビファイザーを0.5秒で、実際にエアクラウドが追加された。2号機はテストで最高速度140パーセントを記録したが、最高速度到達時間は1.5秒と、最高速度には及ぶことなく、機体は中絶されている。





# MS-14A ゲルググ



## ●モビルスーツのバリエーション MS-14

MS-14ゲルググは、ジオン公国軍のビルム戦隊を補強する機種で、一年戦争で開発されたモビルスーツ中、一番の完成度をもっていた。だが、実戦配備が遅れたため、大きな結果をあげる事はなかった。

MS-06ザクⅡの後継機として開発された、汎用性の高い量産モビルスーツである。量産型は行型MS-14は20機生産され、24機はエース部隊に配備され、1機は一部の特殊部隊に配備されたシャア・アズナブ

ム大佐の乗機となった。大戦末期の10月、MS-14の量産がスタート。各地のMS生産ラインもMS-14に変更されたが、実戦配備されたMS-14の数は多くはなかった。





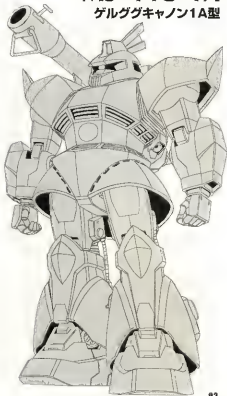
# MS-14C-1A

## ゲルググキャノン1A型

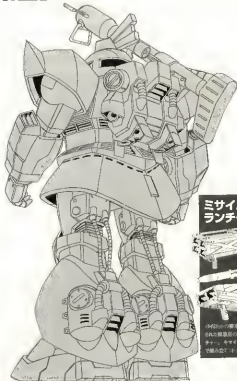
腕部に増設されたコンフォートマルタンクはパイロントの機構により実現したもので、プロペラントの増設により、平均で通

常型MS-14Cの稼働時間を30パーセントは向上している。  
オプション装備として用意された増設用

ブースターバタック面には、機体長銃筒のマウント・ラッチがあり、ジャイアント・バズ等の機体が可能であった。



●モビルスーツバリエーション  
MSVR



### ミサイル・ランチャー

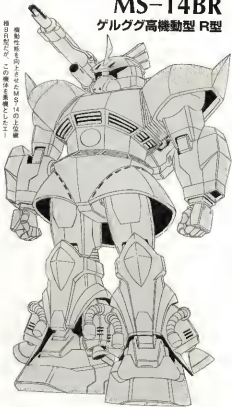


パイロントの構造に於いて製作された機体部品のミサイル・ランチャー。キャノン基盤の内部で組み立てられる。

# MS-14BR

## ゲルググ高機動型 R型

機動性を向上させたMS-14の上位機種。日型だが、この機体を機体としたエア・スパイロット達は、更に機体をチューンナップして使用していた。その反動で機体破壊は手間取り、機体寿命を低下させるという事例もあったと言われている。



●モビルスーツバリエーション  
MSVR

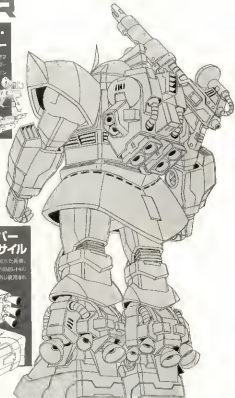
### ミサイル・ランチャー

MS-14専用ビーム・ライフルの改良品。対空・対ドローンにグレネード・ランチャーを装備している。



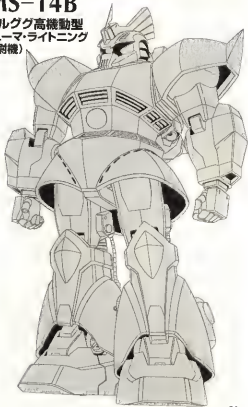
### ラッツリバー 3連式ミサイル

MS-14に使用された兵器。ア・ノビアン・ターゲターやMS-14の機体のパーツを取り外し使用可能。



# MS-14B

ゲルググ高機動型  
(ユーマ・ライトニング  
中尉機)



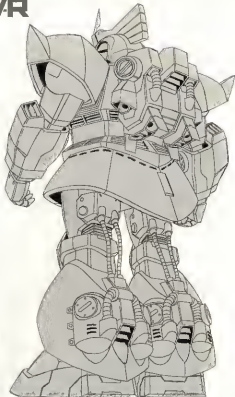
● モビルスーツバリエーション

MSV-R

ユーマ・ライトニングの機体である。頭部の外観などから14C-1Aと見られるが、頭部のデザインが大きく異なっている。明

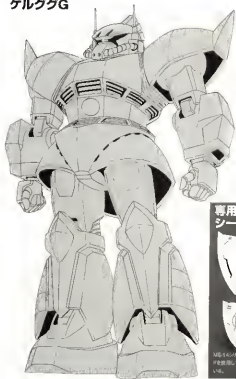
確な経緯はないが、納品メカジュールの都合から、一部にMS-14改換形に試作されたMS-11の部品が運用されたとする説が

ある。FDE(全機動試験機)の部品を使用したか、あるいはFDEをレトロフィットした機体かもしれない。



# MS-14GD

ゲルググG



## 専用 シールド



MS-14GDの専用シールドを装備して戦うことが出来る。

●モビルスーツリレーション

MS-14GD

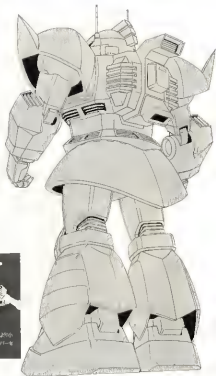
生産が決定したMS-14GDは、グラナダで生産された主要パーツが送られてノックダウン生産のラインが整えられたが、騒動の裏に何うキャリフォルニア・ペリスの生産性の低下、第三試験の悪化などからMS-14GDの製造は、数割の一部変更

を余儀なくされた。胴部のスラスターユニットを外し、オパー機銃をオミットしたのである。生産性の低下に加えキャリフォルニア・ペリスからの搬送もあり、MS-14GDの製造には幾分か生産が遅れている。

## 専用ビーム・ライフル

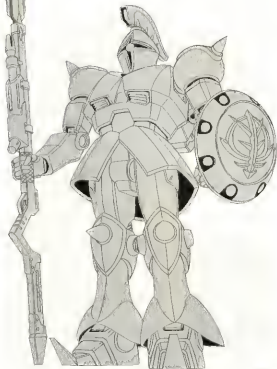


通常用のビーム・ライフルより威力は高められた。威力は1射10センチとダウンしている。



# YMS-15E

## ガン・エオース



●モビルスーツバリエーション

**MSV-R**

完成した2機のYMS-15改修機はYMS-15Eのナンバーが与えられた。運用上に必要となる各種パーツの追加生産分と合わせて、残りの3機もコンダ公団整備機庫の修理業務部隊に搬送されている。  
YMS-15Eの重傷に伴い、再修けされたが結局重傷化はとれることはなかった。

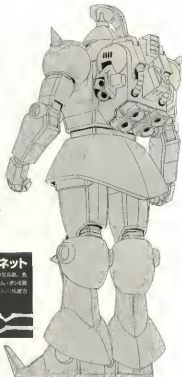
### 専用シールド

ミサイル先制破壊はすくなく、  
近距離での加力アプはから、  
装甲は変更している。



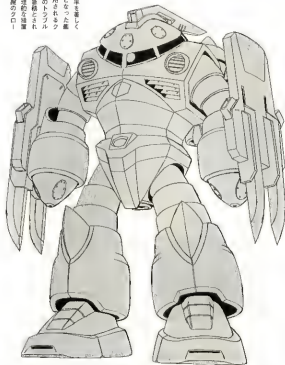
### ビーム・パイオネット

YMS-15Eに搭載された機体の攻撃能力。先鋒部隊にビーム弾を撃ち、小型のビーム・パイオネットを撃ち、その14のビーム・パイオネットは、攻撃部隊の攻撃力。



# MSM-07N ラムズゴック

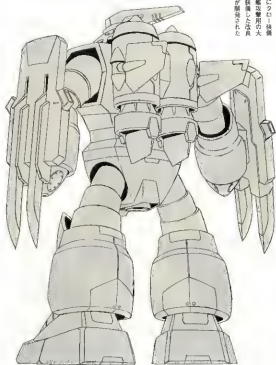
ズゴックの稼働率を著しく低下させる結果となった機体攻撃などに使用されるクビラーアタック時のトラブルに対する対応策が凝結された。結果、必要最低限の武装ではあったが、両腕のクロー



102

●モビルスーツバリエーション  
MSVR

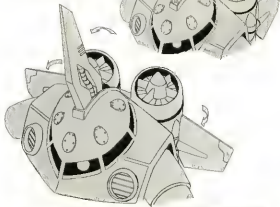
を撤去。代わりにクビラー機体のシールドと片腕攻撃用の大型衝角(ラム)を装備した改良型ラムズゴックが開発されたのである。



103

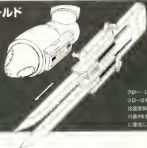
## 頭部・衝角装備

巨鳥形態として展開された大型の衝角(ラム)はビート・ローウと共通の衝角機構を備えている。頭部の特殊な作動により使用が可能である。衝角を使用するのラム部を考慮して前面の243mmのケ・ムランダーを撤去。新たに衝撃吸収用の構造材が加えられている。



## クロー・シールド

巨鳥形態に展開されるクロー・シールドは胸部に密着して展開されたマウンテン型固定される。このため肩関節は前後と折り、前後脚低下の停止に大きく貢献する事になった。

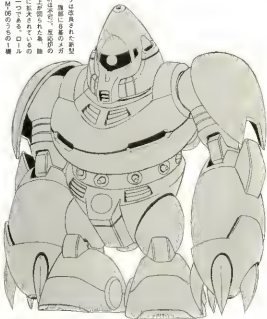


クロー・シールドに展開されたシールドは伸縮式で、その長さは通常形態のクローの約1.5倍の長さを有し、前後脚は更に強化になった。

## ●モビルスーツバリエーション MS-06

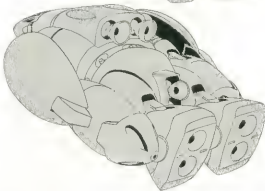
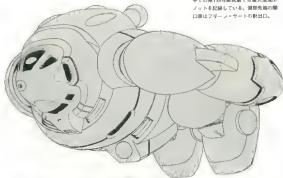
MS-06ジュリクは改良された新型の機構が追加を搭載し、機体にも基本のメガ粒子砲を装備(一斉発射は不可)。足関節の冷却システムは性能向上が図られた為、機上での稼働時間が大幅に拡大されているのが本機の大きな特徴の一つである。ロールアウトした2機のMS-06のうちの1機

## MSM-06 ジュリク

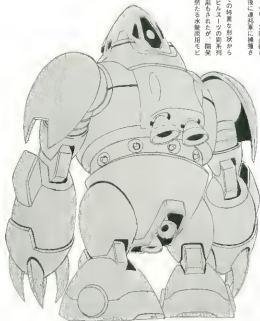


# 水中航行モード

展開のツメを収納した水中モード。海中での第1回特設試験では最大速度7ノットを記録している。操縦席側の開口部はフリースペースの射出口。

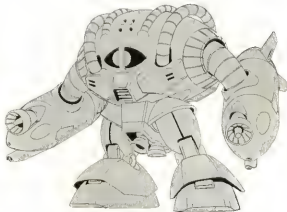


は性能試験中に失われ、グリーンに塗装された機体の一部が試験後に通料室に捕獲されている。  
機体確認時には、その特異な形状からデュラングなど特殊モビルスーツの動系列機種ではないかとの憶測もされたが、開発コンセプトも含め、純然たる水陸両用モビルスーツである。





# EMS-05F アゾック



が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

体である特種モビルスーツ部隊を支援する

ための個體で、対モビルスーツ戦には劣る

が、敵側軍同等に對しては充分な威力と想

重宝な火器を備えているが、これらの兵

隊は、対モビルスーツ戦術ではなく、本

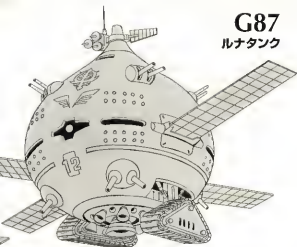
体である特種モビルスーツ部隊を支援する

・モビルスーツバリエーション  
MSV-R

定されていた。  
EMS-05をベースに開発された事もあ  
り機動性能は著しく低く、対策として機体  
後部にもモノアイを配置、モニタリング機  
関を配備している。  
オプション装備としては、対MS地雷機  
能が用意されており、機體を地雷機に機  
装して、機動作戦が行える。この機體は聖  
地作戦等への配備が可能であった。  
EMS-05アングの生産ラインを一部渡  
所する事で、生産体制を整え、8機が生  
産されたオプション装備も同数用意された。  
ジャブロー攻戦前では30機のEMS-05F  
を陣地に送り物資をもつて特種モビルス  
ーツ部隊の戦力温存に活用する事になったよ  
うだが、大戦に機體減少がなされた。  
特種モビルスーツを中心としたジャブ  
ロー攻戦前が実現しなかったため、大戦末  
期にも機が部隊配備されたが、実戦参加の  
機体に送り合う事はなく、終戦後に連邦軍  
により捕収、解体されている。



# G87 ルナタンク



車体の側面4箇所に設けられた板はソーラーパネルの板と想われていたのだが、どうやら違っていたようで、ミノフスキーフットあるいはそれに変わる補助航行システムだった可能性があるが詳細は不明のままである。

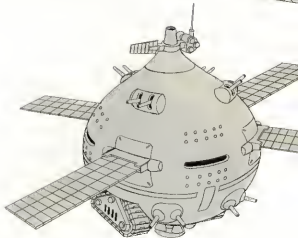
機動性を有し強力な火力をもつ移動砲台として誕生したこの兵器は外観ともに特異なものであったが、のちにモビルアーミー1号機M.A.X.003アノザムのベースとなるなど、ジオン公国軍の兵器開発の経緯を後証するうえでは欠かさない存在でもある。

●モビルスーツバリエーション

**MSV-R**

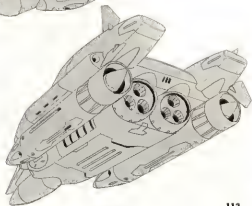
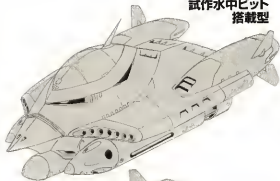
グラフダ基地防衛用として開発されたG87ルナタンクだが、ジオン機組は地中子実していた配備数を50から75へ試作一号機のロールアウト後に引き上げている。性能面に不安を感じての増加だったと想像されるが、戦況の悪化に伴いG87の生産は当初の予定の50にも満たない34機で終了している。

0079年11月におきた二回めのグラフダ会戦で、配備されていたG87ルナタンクのうち6機が損失、残存機も不戦不戦状態になり戦後期間もなく残存機も解体されている。



# MAM-07-X3

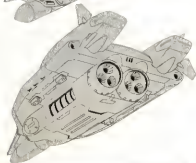
グラブロ  
試作水中ビット  
搭載型



## ●モビルスーツバリエーション MSVR

初稿では、試作機一種の製作にとどまったMAM-07-X3だが、開発計画では機体下部に有線式水中通信ビットを搭載して、機体4基の水中ビット搭載を予定していた。通常パイロットの乗組が可能なサイズ（30m程度）であるものの録度の高いパイロットであれば4基の水中ビットの操作は

可能と考えていたようだ。本機は試作機を終了後追加したシステムを除去して元の姿に帰されて実証配備されている。性能面では問題なかったが、消耗品でもある水中通信ビットの数など稼働条件を満たすことが難しくなっていた事が原因だったようだ。



## 水中用ビット

目前には無敵位射撃4基と、方向転換用の水流スラスタ4基を装備している。自動操縦の面からニックネーム「スキップジョー」にも呼ばれている。



# MAN-00X-2

ブラレロ

●モビルスーツバリエーション  
MSV-R



まだに謎が多いニュータイプ用サイコミュ機構という特殊な事例だけに当然であり、そのため想像した時間の経緯や、まだ機体の改修されていない機体の想像も発見されていない。確認できるのはフラナガン機関に改造された機体の防衛隊のみで、サイコミュシステムの追加と、コクピットがタンデムに改造された事が明かしている。タンデム化する事でニュータイプ能力が発揮されない場合には通常パイロットによる操縦もできるように改修されていたよう

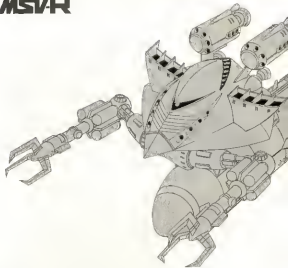
だ。

MAN-00X-2は、プロのサイコミュシステムの小型化を目指して製造された有線メガ粒子砲のエネルギーはブラレロ本体のパワーコンデンサーから供給される。ザクレロを隠蔽し、機体を追加改造した有線式コントロール対応のヒート・ナタも本機の特長的な装備である。両方の機体からメガ粒子砲の代替案として採用されたもののだが、実証での効果は確認されていない。完成したブラレロは、後に続くニュータイプパイロット達のトレイナー機として運用されたが、この事実も長らく伏せられていた。



# MA-05R ビグ・ルフ

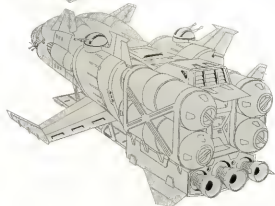
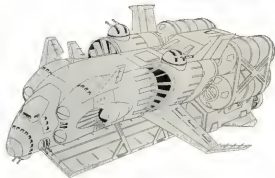
●モビルスーツバリエーション  
**MSVR**



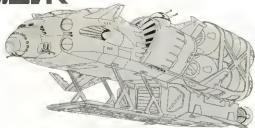
対艦戦における戦術力増強を図るべく、既存の艦艇とMAやMSの改良計画が本戦後期に数多く提案されている。MA-05Rビグ・ルフも提案された改良案のひとつで、採用後生産機14機のうち3機のは生産量が急ピッチで進められた。工用は既存の物を活用していることもあり短期間で終了。要組配置を再編としている。

ビグロ単体の後方には新たにブリスターユニットが増設された。側面には要射撃装置のスワスターを装備し、前部側面には基のミサイルランチャーが配置され火力の向上が図られている。下面の大口径サイムを省き、このブリスターユニットのみを増加装備した改造型ビグロの記録が残っているが、本戦での記録はされていない。

# ザンジバル改級機動巡洋艦 キマイラ



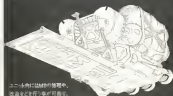
# ●モビルスーツバリエーション MSV-R



最終開発のザンバル軍上層部の要求項目を満たすべく設計されたため、タンクが右き出しという標準的なシルエットとなったキマイラ。ざりざりではあったがザンバル軍上層部が出した要求項目を満たす事に成功したようである。

外観にタンクを右き出しで固定するといった外観のカイゴベユニットはあしらえ伸縮の形状だが、タンクは各種攻撃を想定して二重構造とするなどの増強がとられている。

## 専用カーゴ・ユニット



ユニット内には燃料の格納や、改造などを行う事が可能な、工場設備が見えられている。MS隊出陣の2ヶ月前の地方のジャコウ内がMS隊のガッパズドアーとつながっている。



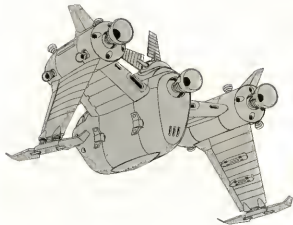
# ゴブルタイプ 宇宙戦闘攻撃機

■モビルスーツバリエーション  
MSV-R

機体の兵装ステーションにマシンガンやドラムマシンを装備し、初期のモビルスーツに比べるとというものであった。攻撃用の兵装ステーションにモビルスーツ用の兵装を備えるのは危険な任務であったが、戦艦からモビルスーツへの離脱手段がなくなった初期パイロットたちを思い立たせたと言われている。

ゴブルをベースに誕生したバリエーションの中には常に最初級に身を置く機体もあった。反動推進機を搭載した初期型ゴブルである、ミノフスキー粒子化で極めて効果的な偵察任務を可能としたこのバリエーションは、MS-06B登場後も機体サイズと、取り回しの良さを各艦隊から重宝され、終戦まで偵察任務の主軸として運用された。

機体構造は、機体後部に反動推進機を収めた四角型ボックスを装備、機体内部のミサイル発射管を撤去してプロペラントタンクに換装して後続部隊の拡大が図られていた。この初期型ゴブルは、既存のゴブルからの改修機、新造機が併走して計17隻が運用されていた。



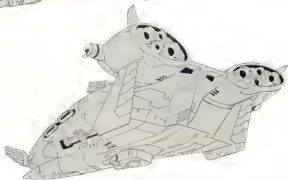
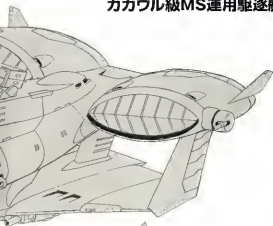
空間の捕獲量を求め取り回しの効率化を図るために小さな機体として開発されたゴブル宇宙戦闘攻撃機は、デベなど大型艦船へ降着しての運用はもろく、その取り回しの良さをフルサイクルなど中型艦船の降着艦としての運用も可能であった。

主武器として機体内に搭載のミサイル発射管を装備、機体前面のバルカン砲を装備している他、機体の両サイドには大型の兵装ステーション2基を装備、主に対艦攻撃用の中型ミサイル各種の他、フェリー周の大気燃料タンクやマウント式のバルカンポッドやミサイル弾倉などが装備されている。

新造スキッドの両側には左右合計4基の兵装ステーションを装備、主に遠距離射撃の戦術ミサイルが運用される。

大気圏外の空間戦闘において、主力の艦をモビルスーツに任せ渡した形となったゴブルは宇宙戦闘艦隊ではあったが、一年戦争の末には新たな任務に足場を築ける事になる。その任務は前述でのモビルスーツへの兵装及び補給の運用任務である。艦隊中のモビルスーツをバックアップするこの任務は通常デリバリー・アタックと称された。

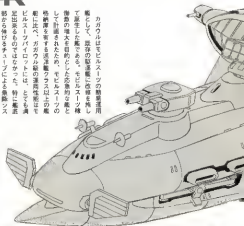
## ガガウル級MS運用駆逐艦



●モビルスーツバリエーション

**MSVR**

ガガウルはモビルスーツの簡易運用艦として、既存の駆逐艦に改修を施して誕生した艦である。モビルスーツ様機の大規模な改修のため、モビルスーツの格納庫を有する運送艦クラス以上の艦に比べ、ガガウル級の運用性能はモビルスーツパイロットには、とても満足出来るものではなかった。特に艦近域から伸びるサブによる乗降システムの評価は高く、ガガウル級付きするパイロット達からはストレスとなるこの乗降システムの改善要求が随分あげられていた。



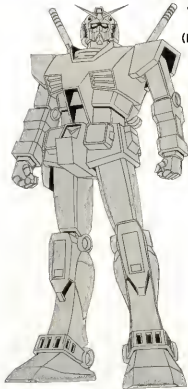
### MSドッキング・ベイ

艦内の奥倉庫にモビルスーツが並列される。モビルスーツの両腕をロックして固定アームが展開。駆逐艦を離脱して待機される。





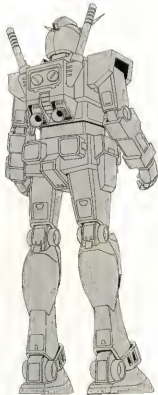
# RX-78-1 プロトタイプ ガンダム (ロールアウト)



## ●モビルスーツバリエーション MSV-R

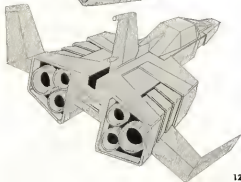
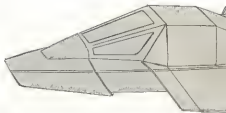
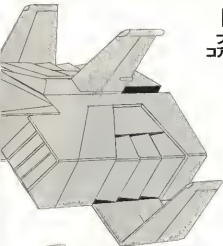
RX-78-1は、先に完成していたRX-55プロトタイプ・コア・ファイターなどにもおなじみの運動テストを実施後、サイドアームに送られている。サイドアームでは、腕部、腰部分と機体各部の改修作業が行われ、外観上はRX-78-1と同等の姿に整えられている。

※ 時期は不明だがカラーリングも白地に赤と青を用いたデモンストレーションカラーにリペイントされている。  
サイドアームで引き続き実用試験での使用後の記録はなく、サイドアーム仕様は失われたとする説があるが真実は不明のままである。



※ 高価格ながら生産コストのがかかるRX-78は試作機のみで生産を断念。一部設計を簡略化したRGM-79ジムの量産化が進められた。

# FF-X5 プロトタイプ・ コア・ファイター



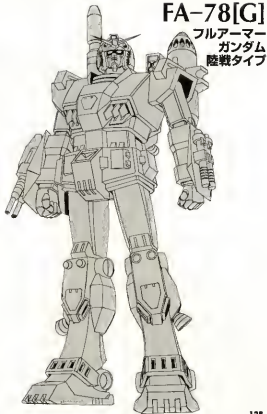
完成したFF-X5はプロトタイプ・コア・ファイターは、試作機としてによる各種テストから、エンジン出力の不足、要形時の機体振動などの問題点が判明した。エンジン出力不足については、地上でのRXモビルスーツからのブレイクアウト時の加速不足が顕著視されたもので、機出力を目的としたこの機体は格差事項でもあった。結果、エンジンには変更が必要とされる出力は特になく、脱出後の機体変換は縮小される事になった。

RX78とFF-X5の機体構造は、RX78のBパーツとFF-X5のドッキング機、要形機に閉鎖点がある事を理解したうえで第1回空中機体テストを敢行。ドッキング後の要形機時のトラブルを洗い出し、これをプログラムングの変更などソフトウェアの変更のみで対応している。第1回空中機体テストから日後には同条件下で空中機体

テストが実施され、空中機体閉鎖高度ギリギリのラインで空中機体に成功している。

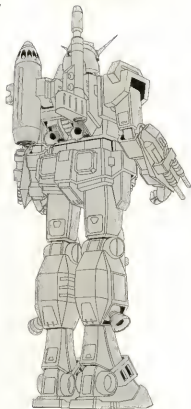
引き続き飛行高度が異なる条件下の空中機体テストが行われた。空中機体の機体は高められ、地球環境下の必要事項を充分に満たす内容であると確認された。運用オペレーションの一つとして、機体の高いパイロットの使用時のみという制約つきではあるがこの運用法は正式の機体が決定した。

完成したFF-X5の機体は、RX78のコア・プロックとして試験運用されたが、間もなく大規模の試験、要形機の状態の必要などの改善をへて要形機であるFF-X7コア・ファイターが完成。RX78の延機機はFF-X7に換装されている。FF-X5の機体は後にFF-X7に型番が変更されテストベッド機として使用された。



連邦軍のMS開発陣はRX-78-1をベースにFA-78-1のプラウを転用してFA-78[G]の戦野プラウをまとめ上げた。FA-78[G]はFA-78-1フルアーマーガンダムの戦野プラウをベースとして設計されているものの、機体域を異力下に制限

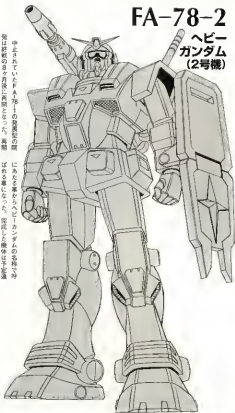
されるため、火力の増設には細微でありFA-78-1に比するやや劣化する内容となった。だが、当時のジオン公国軍のモビルスーツと比較すると過分ともいえる火力を装備する手だたことと要人目にも明らかで



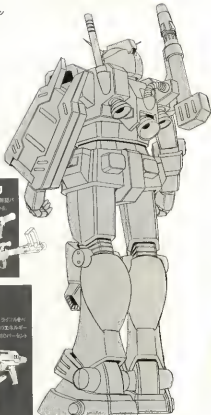
ある。  
シミュレーション作成までされたFA-78[G]だが、FA-78-1同様には採用に至る事はなかった。

**FA-78-2**

ヘビー  
ガンダム  
(2号機)

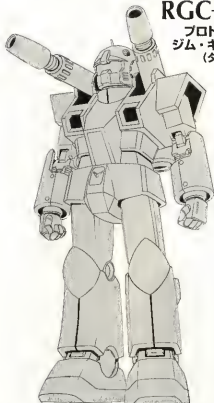


●モビルスーツバリエーション  
MSV-R



# RGC-80

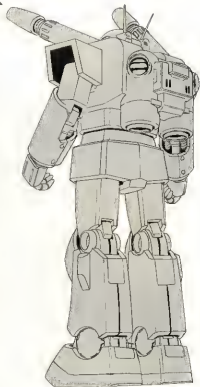
プロトタイプ  
ジム・キャノン  
(タイプ2)

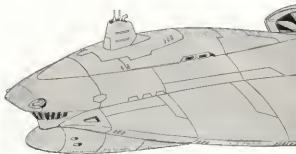
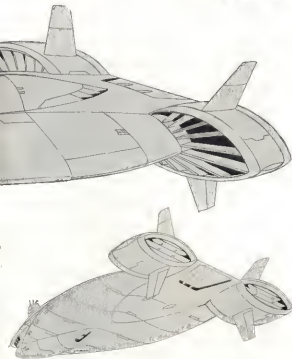


RGC-80のプロトタイプジム・キャノンは、開発に経費したロケット開発時の重量バランスに問題が生じたので、これを安定させるため、機体の重心位置の変更、銃身サイズの変更、更に関節部の改修案などがまとめられ実施された。またこの結果はあ

げられなかった。既得の生産ラインを活用しつつ、RGC-80を完成させたい連邦軍はRX-77の一般仕様を適用、腕部と脚部にカウティングエイトとして採集するRGC-80プロトタイプジム・キャノンの改修案を採用を決定した。

完成したRGC-80タイプ2は、ロケット機の試験で良好な性能を示し、ようやくRGC-80の量産化が決定した。RGC-80はその後テストベッドとして運用され、試験後に解体されている。



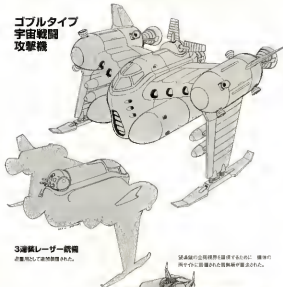


一昨年、蘭越州に、地球測距衛星を8基設置したロケット船を建造していった。しかも、ジオン公国軍は地球測距作戦と同時に、地球艦隊に所属する海軍の潜水艦の拿獲作戦も実行した。この結果でジオン公国軍の強い一掃作戦が作戦における地球測距軍の海上戦力の低下に同時でのジオン公国軍の海軍力の増大となった。ジオン軍の第二次地下作戦開始に導き出されたこのく執行された拿獲作戦により、ロケット船と地球潜水艦、ジュノー級潜水艦あわせて3隻をばらばら奪取し、ジュノー級潜水艦を投入した。

後にジオン公国軍が大量の水素炭素反応炉を投入し、潜水艦部隊とこの潜水艦隊をさせ、地球測距衛星にとっては大被害を蒙るとした。

ロケット船と艦隊をはじめ、世界各地で掌握された潜水艦は順次北米のキャリフォルニア、ペーセス改修作業が行われ、0079年の6月にマッド・アングラ級1番艦と2番艦、翌月には戦艦、太平洋方面に展開するマッド・アングラ1艦に配備されてしまった。

# ゴブルタイプ 宇宙戦闘 攻撃機



## 3連装レーザー銃機

近距離として攻撃用された。

総生産数3000をこえるベストセラー機となった。ゴブルは、良好な機動性や高い稼働率から使用頻度も高く、機つきのバリエーションが生じている。D07Aや、機体後部にレーザー機銃3門をもつ砲撃型を装備したタイプが製造され、新造と改修機、合計300機ほどが用

望遠鏡の全周視野を確保するために、機体の両サイドに設置された観望機が追加された。



## 偵察用反射望遠鏡

シノプスキー戦全下の偵察活動機として、機体後方に反射望遠鏡を装備。

# モビルスーツバリエーション MSV-R

## 観望機ミサイル装備



向敵的観望機、宇宙戦前線に用いられた。

## 宇宙要塞防衛装備



遠空型とサイムを装備した、標準的防衛装備。

## 増槽装備



後部観望機のために用いられる燃料タンク。

## ロケット弾倉装備



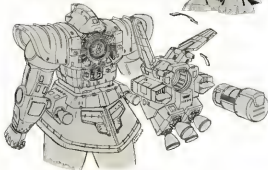
近距離にロケット弾13基を収めた弾倉が追加された。

戦まで製造されている。シノプスキー戦下、新たな偵察機として機体構造が代わり、高性能の反射望遠鏡を装備した偵察型も開発されている。コンバクトな機体が特徴で、多くの機体で終戦まで使用されていた。ゴブルはもともとサイム発射機と観望機を固定装備として開発。生産時期で異なるが、8115番の長距離用ステーションを装備していた。長距離は各種あり、シノロンに含めて使用されている。高機を約戦前には、縦長型で運用して観望機とサイムも使用されていた。シノロン公園軍の主力機はモビルスーツに限り、戦前戦から次第に減少がもたらしたが、一見戦中の末期、モビルスーツを機として再び活躍の場を得ている。機体のステーションを仕様変更し、モビルスーツの標準武装と環境型を連動増設部隊として運用されたのである。戦前戦での危険な任務であったが、多くの熟練パイロットが参加した事もあり、戦率は低かった。

## YMS-09J ドム高速実験型

### 背部・バックパックマウント

YMS-09Jの背面上に設置される駆逐用バックパックの中核とし、設置されているのが、プロペラントタンク、ホートリッジタイプを採用。これにより発射時間を短縮し、前後で4倍速率の向上を図るというがあった。



M S-09ドムのホバリング走行性能向上型として開発されたYMS-09Jには、スタビライザーを備えた特種的な新型のジェット推進パノクが装備され、試験運用で最高速度140パーセント増を記録するも、正式採用はされなかった。

YMS-09Jの機体にあるジェット推進パノクには、ジェットエンジン2基、ロケットエンジン2基、スタビライザー2基を装備。バック本体の中央部には旧型のプロペラントタンクが配置されている。

推進パノクの上方に装備されたスタビライザーは、走行時の機体姿勢制御に効果を発揮するもので、高速時にはスタビライザーの基部が可動。上方にスライドするゆたきでアノブ、スタビライザーは垂直位置から90度おられて水平位置に固定される。

YMS-09Jは、ジェットパノク以外に、機体の動力所にも改良が加えられている。腰部側面に増設用のブースター2基を増設。腰部に増設用インターフェースを増設して、本バツ機との安定と向上が図られている。

腰部には小型のエアブレイクが装備され、減速時および高速時のターニンに効果をもたらした。

## MSビルス・ツバリエーション MSVR

MS-09  
ドム



YMS-15  
ギャン



YMS-14  
ゲルググ



M S-09ドムを継承する第二期主力モビルスーツはゾナン圏内で設計がすすめられたが、宇宙戦での参戦のすには、M S-09の発展型は継でるM S-09リノク・ドムが採用された。主力モビルスーツとして開発中だったM S-11の改善性能は、連邦軍のR X-76に見る機動性向上のところが大きいものであった。第一の目標は、M S-11の標準機動性向上であったが、開発は遅延し、ビーム・ライフルの運用化は機体完成から3ヶ月遅れとなった。

M S-11はM S-14と型式を改良、量産先行型YMS-14が完成され、24機はパイロットに託じたデューン、改機が施され、エースパイロットを招選したキマイラ隊に配備されている。

白兵戦用として開発されたYMS-15ギャンは、総合性能でM S-14に敵れ、試作機動機のみで計表は中止されている。

## MS開発史



**MSM-04N  
アッグガイ**



**MSM-08  
ゾゴック**



**MSM-04G  
ジュアッグ**



**EMS-05F  
アゾック**



**ESM-05  
アッグ**

経路の特長モビルスーツとして、ジャブロー工場のみを目的として製作されたモビルスーツが存在する。これは兵装と機能を分担し、用途のみのモビルスーツ機数をユニット化して運用するという構想のもとに開発されている。

ユニット運用は先鋒として掃討用が選ばれる。機体は反重力力を持つ。格闘専用モビルスーツが白兵戦にのぞむという極めて限定された用途によるものであった。

先鋒を務めるMSM-05アッグは、両腕に大型ドリル、胴体にかッター、レーザービームを装備。地下深い洞窟に侵入された施設への進入路を開く。MSM-04アッグのバリエーション。機体側を装備したMSM-04Gジュアッグの居住用。モビルスーツとの連動戦や格闘戦を得意とするMSM-04NアッグガイとMSM-06ゾゴックが投入、駆逐するのである。

特務用モビルスーツ機は、大戦末期における地上駆逐用モビルスーツの開発が、各地での使用に方向性を決定したことに起因したものである。

状況の変化により、特務用モビルスーツは生産されながら本来の活躍の場を失う

モビルスーツバリエーション  
**MSM-R**

**MSM-06  
ジュリク**



**MSM-07  
ズゴック**



**MSM-10  
ゾック**



**MSM-04  
アッグガイ**



**MSM-03  
ゴック**

事はなかった。

ジオン公国軍は地球連邦作戦のあり、リファインガブアルからのモビルスーツの移動開始に苦慮していた。地上へ降下地点には海を渡らざるを得ず、海中または海上でのモビルスーツの移動に難航を伴う。手帳される事態にジオン技術陣でモビルスーツの水陸両用性の研究がすすめられた。ザクタイプベースとしたMSM-01が作られたが、運動性は悪く、7層のプロトタイプで打ち切りとなった。

水陸両用モビルスーツの開発目的は、単に機動力を移動だけでなく、反重力の冷却に有利な海水を使用できるといふ点にもあった。最初に配備された水陸両用モビルスーツはMSM-03ゴックには傑出力の反応炉を搭載したおかげでメガ粒子炉が装備され上陸直後数分多大な熱をもちた。MSM-03から間もなく第2期水陸両用モビルスーツMSM-06ゾゴック、MSM-04アッグガイも完成配装されている。

大戦末期には9門のメガ粒子炉をもつ、MSM-10、MSM-06が配備されているが、大きな戦果をあげる事はなかった。



MAN-03  
ブラウ・プロ



MAX-03  
アッサム



MAM-07  
グラプロ



MA-04X  
ザクレロ



MA-08  
ビッグ・ザム



MA-05  
ビッグロ



MAN-08  
エルメス



決用手段として承認され、野郎隊での能力をいかに発揮したモビルスーツには同地駐留用としての概念が盛り、主運用としてのモビルスーツコンセプトから、もう一つ進化した新たな兵器のプランが通められた。

攻撃力に優点を付けたこの計画はモビルアーマーという名称を、単に移動式遠火器としてモビルスーツよりさらに高機能な兵器、機体強化が図られた。これはモビルスーツ研究に歩み出したジオン公国軍独自の解釈である。

モビルアーマーの先駆けとなったのは、移動式対空攻撃兵器として月面へ配備されていたG77ルナタンクである。これを地球土での使用に耐えるように改修したのがMAX-03アッサムである。重武装投入は比較的古かったが、機体上の特徴から製作機2機が作られることになった。

水中戦用としてMSMシリーズと並行して製作が行われたのが、MAM-07グラプロである。サンディエゴの潜水艦ドックで建造された製作機3機は各機が基盤加している。

空間駐留として開発されたMAN-05ビッグ

ロは、在来型宇宙ボイドにモノアイシステムを一体化し、推進エンジンには推力800トンの物が2基装備された。北米キャピタルニア・ベースで製作され、14機が生産された。

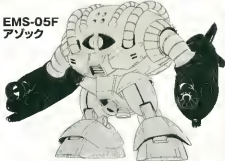
MAN-04XザクレロはMA-05、MAM-07に先行して開発がすすめていたが、産面なる設計変更や開発メーカーの不手配から完成が遅れた。

攻撃力増強のコンセプトの下に開発されたのがMA-08ビッグ・ザムである。移動兵器としては異色の物と考えらるるが、可動には大型反重力基を駆動点まで引き上げねばならない上に、可動時間は平均15分程度であった。

MAN-03ブラウ・プロはニュータイプ用として製造された機体である。サイコモニタシステムのデータ回収を主な任務としていた。

ニュータイプ用モビルアーマーの最終試作機MAN-08エルメスには、機体格納スペースに10基の無人攻撃ボッド「ビット」が搭載されていた。「ビット」にはビット砲と高機動バーニアが搭載され、パイロットの必要度を考慮して攻撃が可能であった。

## EMS-05F アソック



## 機体解説

### ウェポン・ボッド構造



特製モビルスーツとして開発された EMS-05Fには、主機関として多種な武器を収めたウェポン・ボッドが機体搭載された。

メガ粒子砲を二門、火炎放射器を二基、ミサイル群の発射機4基を装備している。発射機には、機体後部の地対地ミサイルの他に、水中発射機に空中を飛翔する水中ミサイルや小型魚雷も用意され、ミソシンにより選択される。

EMS-05Fは準水陸両用モビルスーツとしての機能をもつため、4基の発射機には型別式のハッチが設けられている。

火炎放射器は、ジャブロー式電熱で、封鎖路の攻撃に有効と判明されて採用されたものである。

機体後部には機銃が前後に4門つづ装備されている。

開発はEMS-06アングをベースに機体を支援用モビルスーツとして設計されたため、機動性能は極めて低く、対モビルスーツ戦には向かない。機動性能の高いモビ

●モビルスーツバリエーション

## MSVR

### 地雷掘削装置

敵地を対抗の地雷帯の掘削、排除、敵陣の頂上ドザーを撃って海中に沈没させる結果を導く。



### 搭乗トビラ

搭乗前扉の右側に乗降口が設置されている。パイロットは副の乗降ケーブルを使って搭乗する。



ルスに二機併用しての運用が最も有効と考えられていた。

オプションとして、搭乗の対地雷掘削装置は縦利なホースとドザーを装備した機体2機を、機体の尾部分までを接続して使用される。

対地雷掘削装置の掘削機の基体正面側面には、小型のモニターが設置されており、作業状況モニターリングする事が可能となっている。

ドムやゲルググなどのMSから、ブラレロなどMAまで。  
ジオン軍のスーパーウェポンを紹介する！

機動戦士ガンダム  
MSV  
MOBILE SUIT VARIATION

機動戦士ガンダム

Kadokawa Comics A

# MSV-R

モビルスーツ  
バリエーション

ジオン編

メカニックデザイン:

大河原邦男

編:草刈健一



テクニカル&ヒストリー



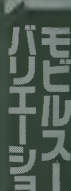
**F.S.S**  
Federation Survey Service





Kadokawa  
Comics

A



大河原邦男

KCA378-3  
角川書店

機動戦士ガンダム

# MSV-R

モビルスーツ  
バリエーション

ジオン編

メカニックデザイン:

大河原邦男

編:草刈健一

テクニカル&ヒストリ







9784041210185



1920979008007

ISBN978-4-04-121018-5

C0979 ¥800E

定価:本体800円(税別)

発行:株式会社KADOKAWA

KADOKAWA



**F.S.S**  
Federation Survey Service





Kadokawa  
Comics

A

# バモ リビ エス シヨ リ

シ  
オ  
編



編著 早川健一  
大 河 原 邦 男  
× カニジマ デザイン

KCA378-3  
角川書店